

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 火 2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と環境 (ハンディキャップ) Humanand Environment (Handicap)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 長尾哲男 / nagao@nagasaki-u.ac.jp / 研究室:保健学科 5F / 火 830-1000			
担当教員(オムニバス科目等)	東嶋美佐子		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい: 疾病・事故・加齢等に伴う運動機能の障害やそれ等からおこる生活障害等により生じるハンディキャップについて学ぶ。 また、リハビリテーションの観点から身体機能の障害改善のための主体的活動への働きかけや身体の多様な障害から生活障害を惹起させないための多面的な検討を紹介し、障害者の生活権保障から社会生活におけるノーマライゼーションを模索することの理解を深める。</p> <p>授業方法: 講義・視聴覚資料の視聴・福祉機器の操作体験・相互の意見交換</p> <p>授業到達目標: 傷害された機能の再獲得のための作業療法視点からのアプローチと理解することにより、受動的な訓練と異なった主体的な活動による機能回復や開発を目指す支援方法の理解を深める。また、機能障害を代替する方法の変更・環境調整や機器の利用等により機能の障害を生活の障害とさせない支援について理解できるようにする。 障害者・高齢者等の生活弱者の生活権の存在を理解する。それへの認識を深めて自律的生活遂行における困難な部分において支援を受ける権利の保障についてからノーマライゼーションを模索する視点を身につける。また、支援の企画を理解し提案できるようにする。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
<p>授業内容(概要) リハビリテーションの定義の変遷とリハビリテーションアプローチの変遷から障害に対する認識の時代的变化について講義し、身体の機能障害へのアプローチとしての作業療法の理念と手法について講義する。 特に運動機能の障害理解や改善のための治療理論と作業療法における活動利用の実際等について講義する。 多様な生活文化と生活技法について講義し、支援の理念や支援方法による功罪について講義する。 それぞれのテーマについて時間ごとに議論し、それぞれが自分の意見としてレポートにまとめて報告することにより理解を深める。</p> <p>第1回 リハビリテーションの歴史と障害分類の変遷 第2回 リハビリテーションと作業療法の理解 第3回 運動機能障害の理解 第4回 運動機能障害と治療的対応 第5回 運動機能障害と生活対症的対応 第6回 加齢に伴う障害と対応 第7回 嚥下障害への対応 第8回 「機能障害と生活障害の関係」と「支援の理念と環境改善」 第9回 生活用具と彼我の文化の違い 食文化の歴史的違いから食器用具の違いと障害者用食器用具 第10回 障害者と交通 移動の権利の視点および、自らの自動車運転の視点から 第11回 切断者の理解と生活 義肢の利用と生活技法について 第12回 高位脊髄損傷と生活 生活障害との関連からみた身体機能障害の意味について 第13回 障害者と性 障害者の性の権利と支援を考える(身体障害・知的障害別の視点) 第14回 住環境と生活 住環境におけるバリアの捉え方「バリアフリー」の妥当性について 第15回 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	参考書: 上田敏リハビリテーションを考える(障害者問題双書) 福祉用具アセスメントマニュアル(中央法規) 他適宜配布・紹介する		
成績評価の方法・基準等	定期考査 50% レポート 50%		
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、個別に学習の指導を行う		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			